

【専任】 2025年度 大学教員 配置表

2025/4/1

	文学部				教育学部		生活創造学部		心理相談センター	合 計
	国 際 英 語 学 科	史 学 科	心 理 学 科	日 本 文 化 学 科	幼 児 教 育 学 科	児 童 教 育 学 科	生 活 文 化 学 科	観 光 文 化 学 科		
教 授	1 倉 林 直 子 2 ウィリアム・キスチャック 3 4 5 6 ＜特別専任＞ 向 野 光	学部長 高 津 純 也 図書館長 藤 原 昌 樹 大 西 克 典 松尾(辻) 明日香 原 田 晶 子 堀 部 猛	副学部長 鵜 沼 秀 行 研究科長 田 中 裕 佐 藤 哲 康 桂 瑠 以 簗 下 成 子	眞 田 尊 光 須山(山名) 順子 ＜特別専任＞ 竹 内 啓 田 中 聡	今泉(菅井) 洋子 江 村 綾 野 手 塚 崇 子 溝 口 武 史	学部長 小 山 久 美 子 補佐 加 藤 美 由 紀 小 倉 京 子 山 口 祐 子 横 山 悦 子	永 嶋 久 美 子 古金谷(香山) 綾子 齋 藤 美 重 子 佐 久 間 美 穂 佐 藤 真 弓	学部長 西 川 誠 学部長 菱 田 信 彦 櫻 井 正 戸 澤 純 子 高 山 啓 子 山 下 琢 巳		
小 計	3	6	5	4	4	5	5	6	0	38
准 教 授	1 2 3		藤井(松岡) 靖子	伊 藤 純	関 本 仁 山 下 佳 香	奥 田 順 也 松 本 祐 介 山 口 恭 平	佐瀬(叶内) 茜 庄 司 武 史 築 館 香 澄	植 松 大 介 奥名(山田) 祐子		
小 計	0	0	1	1	2	3	3	2	0	12
講 師	1 佐 藤 翔 馬 2 山 本 麻 里 耶 3	志 村 瑠 璃 長 崎 健 吾	富 島 大 樹 平 間 さ ゆ り 山 下 佳 久	川 田 明 彦 張 明 宮 内 理 伽	大橋(大澤) 里紗		松 本 梓 朴 善 美	庄司(江口) 智子		
小 計	2	2	3	3	1	0	2	1	0	14
助 教	1 マクシム・シャバリン									
小 計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
助 手	1 2 3				真 鍋 可 苗		戸 田 聡 子 平 中 菜 摘 太 田 ゆ き 江		久 保 舞	
小 計	0	0	0	0	1	0	3	0	1	5
合 計	6	8	9	8	8	8	13	9	1	70

令和7年度 教員の学位・業績等

文学部 国際英語学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
倉林 直子	国際英語	教授	津田塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学	修士(文学)、MA (History, University of Virginia)	アメリカ史	日米関係史	アメリカ文化史	国際文化特講II	「冷戦期におけるアメリカ文化外交―1958年ニューヨーク・シティ・バレエ団の日本公演を一例に」『アメリカ研究』57号、2023年3月	「1960年代日本舞台芸術とアメリカ―文楽、狂言、能―」『津田塾大学紀要』55号、2023年3月	「1950年代日本舞台芸術とアメリカ―1959年アメリカ雅楽公演を中心に―」『アメリカ太平洋研究』20号、2020年3月	「日米文化交流をめぐる協調と摩擦 1960年歌舞伎のアメリカ公演を一例として」『アメリカ史研究』第40号、2017年8月
W・キスチャック	国際英語	教授	法政大学大学院人文科学研究科日本文学専攻	修士(文学)	シーラ・ワトソン研究	能楽研究	言語コミュニケーション特講IV	EIA. II (English in Action)	シーラ・ワトソン Rough Answerの試訳及びワトソンの年譜, 川村英文学第8号, 2003年3月	シーラ・ワトソン Brother Oedipus-a story-の試訳, 川村英文学第9号, 2004年3月	シーラ・ワトソン研究 The Black Farm-A Modern Allegory-の試訳, 川村学園女子大学研究紀要第16巻第1号, 2005年3月	シーラ・ワトソン研究ー短編 Antigoneの試訳ー,川村学園女子大学研究紀要第17巻第1号, 2006年3月
向野 光	国際英語	教授	千葉大学教育学部	教育学士	特別支援教育	キャリア教育	特別支援教育	進路指導・キャリア教育	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房, 2024年	特別支援学校における職業教育についての一考察(千葉県における作業学習の編成を通して)『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第2号	高等特別支援学校における生徒指導に就いての一考察 川村学園女子大学子ども学研究年報』第2巻第1号	知的障害をもつ人々の生涯学習をの今後についてー公民館で行う知的障害者のための演劇活動を通してー『川村学園女子大学研究紀要』第35巻
佐藤 翔馬	国際英語	講師	名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程修了	博士(学術)	言語学	英語教育	言語コミュニケーション特講II	児童英語教育法・児童英語教材研究	「理由を提示するit is that節構文」『英語語法文法研究』第22号、2015年12月	「文主語構文とit外置文」『英語語法文法研究』第26号、2019年12月	「It says PP構文におけるitの働きと語順について」『英語語法文法研究』第27号、2020年12月	「2種類のit is (just) that節構文」JELS 32, 2015年1月
山本 麻里耶	国際英語	講師	白百合女子大学大学院文学研究科児童文学専攻博士課程単位取得退学	修士(文芸学)	英語圏児童文学(ファンタジー)	イギリス文学アメリカ文学	国際文化特講I	イギリス・アメリカ文化研究I(2)	「ケネス・グレアムの『ものぐさドラゴン』におけるキャラクターのイメージ反転」『白百合女子大学児童文化研究センター論文』XIII、2010年3月	「E・ネズビットの「国中がドラゴン」に見る疫病としてのドラゴンの表象について」『日月』第19号、2022年11月	「ベジタリアンになったドラゴンーローズマリー・マニングのR・Dの場合」pp.106-128、『子どもの〈本〉と食ー物語の新しい食べ方』(共著)、玉川大学出版部、2007年1月	第二部: Introduction(pp.85-89)、ゲド戦記シリーズ1-3巻あらすじ(pp.92-96)、ゲド戦記シリーズにおける魔法(pp.118-133)、キャラクター紹介(ゲド、テルー、オジオン、トンボ、ドラゴンたち)(pp.182-195)、『ゲド戦記の世界「ゲド戦記」はじめて読本』(共著)、近代映画社、2006年8月
マクシム・シャハリン	国際英語	助教	オックスフォード大学、マートン・カレッジ、東洋研究所	文学博士(D.Phil.)	東洋研究	国際政治学	日本の政治と国際社会 (1) (2)	海外から見た日本 (1) (2)	第2回ヨーロッパ日本研究ラウンドテーブル「北東アジア安全保障再考」(イギリス、シェフィールド大学)に参加(平成20年3月)	イギリス日本研究協会年次大会(イギリス、マンチェスター)にて口頭発表(平成20年4月)	日本政治学コロキウム年次大会(イギリス、リーズ大学)にて口頭発表(平成20年9月)	ワークショップ「なぜ(いまだに)日本は重要なのか」(イギリス外務・コモンウェルス省およびシェフィールド大学)において、日本とロシアの関係について報告(平成21年4月)

令和7年度 教員の学位・業績等

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
高津 純也	史学	教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士後期課程修了	博士(文学)	中国古代史	中国思想史, 中国古文字学	アジア史研究入門(1)	東アジア史	『地下からの贈り物―新出土資料が語るいにしえの中国―』共著, 東方書店, 2014年	『『尚書』諸篇の成立に関する一考察―戦国諸国における同時並行的な成書について―』, 单著, 『史学雑誌』第116編11号, 2007年	『『荀子』『禮記』引書再考―楚簡本「緇衣」の出現を踏まえ―』, 单著, 『中國出土資料研究』第16号, 2012年	「マイクロティーチングという試み―地理歴史科教育法に与える影響について―」, 单著, 『川村学園女子大学教職センター年報』第1号, 2018年
藤原 昌樹	史学	教授	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程 満期退学	修士(スポーツ健康科学)	スポーツ社会学	武道論	オリンピック論	ボランティア論	「スポーツボランティア養成事業の指針について」, 共著, 日本スポーツ産業学会第25回学会大会, 2016.	『小学校教員養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』, 共著, 株式会社ワードオン, 2011.	「生涯スポーツと支援者」, 日本生涯教育学会編『日本生涯教育学会年報』第25号, 单著, 日本生涯教育学会, 2004.	『保健指導のすすめ方』(養護教諭のための実践教育保健学講座第11巻), 单著, 出版科学総合研究所, 1985.
大西 克典	史学	教授	ピサ高等師範学校博士課程修了	博士(歴史学)	近世イタリア史		西洋史演習(2)	西洋史概説(1)	(单著) <i>Il progetto di catasto generale nella Toscana del Settecento: una polemica sulla riforma leopoldina</i> , Roma; Edizioni di Storia e Letteratura, 2022.	「18世紀トスカーナ大公国における統一土地台帳編纂計画とその挫折: ピエトロ・レオポルド期の改革路線対立」『西洋史学』258号(2015年)	「近世イタリア都市工業と啓蒙改革―18世紀トスカーナにおける絹織物工業保護」『史学雑誌』126編8号(2017年8月)	「18世紀トスカーナ大公国における統一土地台帳編纂計画とその挫折: ピエトロ・レオポルド期の改革路線対立」『西洋史学』258号(2015年)
辻 明日香	史学	教授	東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修了	博士(文学)	西アジア史		アジア史概論(2)	アジア史研究入門(2)	(共著) “Wearing the Blue Turban Again: Christian Reconversions in Mamluk Egypt,” in Katsumi Fukasawa et al. (eds.), <i>Conflict and Reconciliation among Confessions and Religions</i> , London: Routledge, 2017.	(共著) “Preliminary Report on Four saints from the Mamluk period: Hadid, Yuhanna al-Rabban, Barsauma al-’Uryan, and ’Alam,” in Paola Buzi et al. (eds.), <i>Coptic Society, Literature and Religion from Late Antiquity to Modern Times: Proceedings of the Tenth International Congress of Coptic Studies</i> , Rome, September 17th–22nd, Louvain: Peeters, 2016.	『コプト聖人伝にみられる十四世紀エジプト社会』山川歴史モノグラフ, 山川出版社, 2016年。	「11世紀後半―14世紀下エジプトにおけるキリスト教徒集落の消長」『日本中東学会年報』第31–2号(2016年3月)。
原田 晶子	史学	教授	エアランゲン大学博士課程修了	Dr. Phil.	西洋中世史	地域文化研究(ドイツ)	西洋史演習(1)	西洋史研究入門(1)	(单著) <i>Die Symbiose von Kirche und Stadt im Spätmittelalter. Das bürgerliche Gemeinschaftsbewusstsein und Stiftungen an die Pfarrkirchen in der Reichsstadt Nürnberg</i> (Studien zur Geschichtsforschung des Mittelalters Bd. 31), Hamburg: Verlag Dr. Kovač, 2014.	『断絶と新生: 中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』共著, 慶応義塾大学出版会, 2016年	「西洋中世都市の市壁と都市のアイデンティティ」『歴史学研究』972号(2018年)	「中世末期ドイツ都市における聖母マリア賛歌「サルヴェ・レジーナ」寄進の社会的意義 ―帝国都市ニュルンベルクを例に―」『比較都市史研究』第31巻第2号(2012年)。□
堀部 猛	史学	教授	筑波大学大学院教育学研究科修士課程修了	修士(教育学)	日本古代史	博物館学	日本史演習(1)	博物館資料論	「常陸国信太郡と7世紀の東北政策―黒坂命伝承を手がかりに―」『日本史学集録』第45号、2024年	「綾司・綾所考―皇后宮職の手工業生産機構―」『国立歴史民俗博物館』第244集、2024年	「トネリの勸籍」『史学雑誌』第130編第7号、2021年	『訳注日本史料 延喜式 下』共著、集英社、2017年
志村 瑠璃	史学	講師	東京大学大学院教育学研究科博士課程(単位取得満期退学)	修士(教育学)	図書館情報学		図書館概論	図書館情報資源概論	「書店が読者に媒介しうる本: 名著文庫を対象として」『日本図書館情報学会誌』vol. 67, no. 1, 2021, p. 1–15.	「読書法の書籍における読書観の類型とその経年変化」『日本図書館情報学会誌』vol. 65, no. 4, 2019, p. 162–180.	Ruri Shimura, Shohei Yamada, Bin Umino, Shin'ichi Toda, Kyo Kageura “The Structural Characteristics of the Japanese Paperback Book Series Shinsho,” <i>Libres</i> , vol. 27, no. 1, 2017, p. 39–52.	志村瑠璃, 朱心茹「『日本図書館情報学会誌』における著者の出現分布」『生涯学習基盤経営研究』vol. 45, 2021, p. 27–42.
長崎 健吾	史学	講師	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程	博士(文学)	日本中世史		日本史研究入門(1)	日本中世史	「戦国期京都の都市民と権力」『歴史学研究』1028号、2022年	「室町戦国期京都における法華宗諸門流の動向」『古文書研究』89号、2020年	「戦国期京都における都市民の社会的結合と「家」」『史学雑誌』128編9号、2019年	「戦国期京都の酒屋・土倉と法華宗」『日本仏教総合研究』17号、2019年

令和7年度 教員の学位・業績等

文学部 心理学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
鵜沼 秀行	心理	教授	早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程(単位取得退学)	博士(教育学)	知覚心理学	認知心理学	心理学統計法	心理学実験(基礎)	【著書】対象の認識における情報の時間空間的統合と知覚的表象の形成, 単著, 早稲田大学出版会, 2013	【著書】改訂版はじめての心理統計法, 共著, 東京図書, 2016	【学術論文】Spatiotemporal integration and contour interpolation revealed by a dot localization task with serial presentation paradigm, 共著, Wiley Blackwell 日本心理学会, Japanese Psychological Research, 2010	【学術論文】Facial features in perceived intensity of schematic facial expressions, 共著, Ammons Scientific, Perceptual and Motor Skills, 2010
田中 裕	心理	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	生理心理学		生理心理学(文学部心理学科専門科目)	生理心理学特講(大学院心理学専攻専門科目)	Yu TANAKA, Takenobu OHISHI, Etsuko HAYASHI, Rumiko KATO, Hideoki TADA (2013)【共著】Eyeblink as a formative assessment technique for people with profound multiple disabilities Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities Vol. 10, pp. 174.	田中裕(2009b)学習と条件づけと動機づけ【共著】『社会福祉学習双書』編集委員会(編) 社会福祉学習双書2009 第11巻 心理学 第1章 第5節 全国社会福祉協議会出版部 pp.25-29.	田中裕(1999)【単著】覚醒水準と瞬目活動心理学研究 Vol.70 pp.1-8.	田中裕(2002a)【単著】視覚作業休息下における随意性瞬目の効果 川村学園女子大学研究紀要,第13巻 第1号 pp.159-168.
佐藤 哲康	心理	教授	立正大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程(単位取得退学)	修士(文学)	臨床心理学	カウンセリング心理学	青年心理学(学部)	心理療法各論Ⅰ(認知行動療法)(大学院)	【著書】不登校の予防と対応,分担,図書文化社,2020	【著書】教育相談の理論と方法,分担,北樹出版,2019	【論文】待つ相談室から働きかける機能を包括した学生相談室への展開, 学生相談研究 29(2), 153-165, 2008	【論文】自ら助けを求めず潜在している学生に対する学内協働による取り組み-欠席過多学生対応プロジェクトを通して-, 学生相談研究 28(3), 214-224, 2008
桂 瑠以	心理	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	博士(人文科学)	社会心理学	教育心理学	社会心理学概論	コミュニケーション論	【著書】挫折と向き合う心理学, 共著,福村出版,2020	【著書】新しい教育相談論, 共著,武蔵野美術大学出版,2016	【学術論文】インターネットの利用による心理的引きこもりの低減効果の検討-青年期から老年期の世代間比較-, 共著, 日本教育工学会論文誌, 2020	【学術論文】The effect of mobile phone use on communication between parents and children: A panel study examining causality, 共著, Ochanomizu University Global COE Program English Monograph, Proceedings, 2012
簗下成子	心理	教授	筑波大学大学院博士課程医学研究科卒業	博士(医学)	臨床心理学	犯罪心理学	非行・犯罪心理学(学部)	臨床心理面接法特講(大学院)	Koelkebecka,K ,Vosselera,A, Kohla,W, Fasshauera,T, Lencera,R, Satoh,S, E. Kretc,M, Minoshita,S Masked ambiguity – Emotion identification in schizophrenia and major depressive disorder Psychiatry Research 270, 852-860, 2018.	簗下成子, 小島秀悟, 佐藤親次, 表情認知の精神病理学的研究, 脳の科学, Vol22. 2, pp.177-181, 2000.	簗下成子, 森田展彰, 佐藤親次, 浅井義弘, 統合失調症患者における表情認知と社会適応度の関係- 能面テスト(Noh Mask Test)を用いて-, 社会精神医学雑誌 12(3)253-261,2004.(Minoshita S, Morita N, Satoh S, Asai Y. Relationships between facial expression recognition and social adjustment in schizophrenia. -The Noh mask Test as a social skill assessment- Japanese Bulletin of Social Psychiatry 12(3)253-261, 2004.)	Minoshita S, Morita N, Yamashita T, Yoshikawa M, Kikuchi T, Satoh S, Recognition of affect in facial expression using the Noh Mask Test: Comparison of individuals with schizophrenia and normal controls. Psychiatry and Clinical Neurosciences 59, 1, 2005, pp.4-10.
松岡 靖子	心理	准教授	名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程(単位取得退学)	博士(心理学)	発達心理学	学校臨床心理学	発達心理学・教育学校心理学(学部)	臨床心理実習Ⅱ(大学院)	【著書】(編者/共著)スクールカウンセラーのための主張と交渉のスキル,金子書房,,2024	【論文】(単著)常勤型スクールカウンセラーの活動における有効性と課題-私学常勤型スクールカウンセラーのインタビューから-,質的心理学研究,第24巻1号,266-270,,2025	【論文】(共著)私学常勤型スクールカウンセラーの活動の実際と課題,川村学園女子大学研究紀要,第33巻,33-51,2022	【論文】(単著)スクールカウンセラーの教員との連携構築プロセス-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる検討-,カウンセリング研究,第47巻2号,61-75,2014
平間 さゆり	心理	講師	国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻博士課程(単位取得退学)	博士(臨床心理学)	臨床心理学	犯罪心理学	心理実習・臨床心理実習(大学院・学部)	心理的アセスメント(学部)	【論文】(共著)鳥獣戯画テストを用いた視点取得の測定の検討, 川村学園女子大学大学院研究年報, 第2号, 19-37,2013	【論文】(共著)我が国の女子殺人受刑者に関する研究-家族機能・パーソナリティ・発達障害の傾向を他罪種と比較して-, 国際医療福祉大学学会誌, 21(2),37-47.,2016	【論文】(共著)公認心理師養成課程の心理実習について-コロナ禍における心理実習の学びの報告-,川村学園女子大学大学院研究年報, 第11号, 33-53,2022.	【論文】(共著)心理実習における心理的支援感について-達成目標と向社会性の観点による検討-,川村学園女子大学大学院研究年報, 第10号,49-61,2021
山下 佳久	心理	講師	明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻臨床心理学専修博士後期課程	博士(人間学)	臨床心理学	人間性心理学	臨床心理学概論(学部)	公認心理師の職責(学部)	【論文】TAEセッション過程のモデル生成に関する研究-質的研究による検討-(2024) トランスパーソナル学研究 (18) 15-34	【論文】TAEが与える大学生の進路の捉え直しの過程について-質的研究による過程モデルの生成-(2017) 人間性心理学研究 35(1) 63-75	【著書】(共著)フォーカシングハンドブック.,2025	【論文】TAE研究における動向と今後の展望について, 文学研究科論集,66号,111-128
富島 大樹	心理	講師	筑波大学大学院人間総合科学研究科生涯発達科学専攻博士課程	博士(カウンセリング科学)	臨床心理学	実験心理学	臨床心理学特論(大学院)	社会・集団・家族心理学(学部)	【論文】(共著)心配が制御困難になる要因についての探索的検討 (2015) 心理臨床学研究 33(3) 241-251	【論文】(共著)複数の心配関連刺激の処理における心配傾向の影響 (2018) パーソナリティ研究 27(2) 140-148	【論文】(共著)心配性者と非心配性者における注意バイアスのメタ分析 (2023) 清泉女学院大学人間学部研究紀要 20 1-15	【論文】(共著)注意バイアス修正法の効果に及ぼす実施場所と診断の有無の影響についてのメタ分析 (2024) 清泉女学院大学紀要 21, 183-197

令和7年度 教員の学位・業績等												
文学部 日本文化学科												
氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
眞田 尊光	日本文化	教授	高野山大学大学院文学研究科密教学専攻博士後期課程修了	高野山大学：博士(密教学)・修士(密教学)、早稲田大学：修士(文学)	仏教美術史	日本美術史	日本の絵画	日本の仏像	【著書】『鑑真と唐招提寺の研究』(単著)、吉川弘文館、2021.3	【著書】『正倉院宝物の輝き』(共著)、里文出版、2020、10	【著書】『みる・よむ・あるく 東京の歴史8 地帯編5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』(共著)、吉川弘文館、2020、3	【著書】『西大寺―美術史研究のあゆみ―』(共著)、里文出版、2017、12
竹内 啓	日本文化	教授	東京芸術大学大学院美術研究科 日本画専攻 修士課程 修了	芸術学修士(美術)	美術	日本画	保育内容の理解と方法(造形)	幼児造形指導法	[展覧会]「遺跡の空―竹内啓展」日本橋高島屋X画廊,東京,2012	[論文]「幼児と造形表現―プラ板を使った表現から―」川村学園女子大学教職センター年報第1号,pp335-346,(2018)	[論文]「幼児造形表現指導におけるフェイスペインティングの試み」川村学園女子大学研究紀要第29巻・第2号,pp83-101,(2018)	[展覧会]「スサノヲの到来―いのち、いかり、いのり」足利市立美術館ほか、2014～2015
田中 聡	日本文化	教授	中央大学理工学部	理学士	算数・数学教育	学校経営	算数	算数科教育法	小学校算数科指導の工夫(我孫子市立我孫子第四小学校における実践)『川村学園女子大学教職センター年報』創刊号	「我孫子市新任校長研修会」に関する実践報告(学校ランドデザインと信頼される学校づくり)『川村学園女子大学教職センター年報』第2号	「みんなでつくる地域の学校」千葉県総合教育センター『千葉教育』4・5月号NO625	「ふるさと我孫子の先人たち」我孫子市教育委員会教育総務部指導課
山名 順子	日本文化	教授	お茶の水女子大学大学院博士後期課程人間文化研究科修了	博士(人文科学)	日本文学(近代/近世)	国語科教育	日本文化専門演習Ⅲ(日本近代文学)	国語科教育法Ⅲ、Ⅳ	「国語科における〈文部省唱歌〉および〈伝統的な年中行事〉の利用の研究 ―中学校における実践研究を通じて―」、『子どもを取り巻く家庭・教育・環境をめぐる研究』、川村学園子ども学研究所、2016.01	「山東京伝の読本・合巻における挿絵の変遷―『梅花氷裂』から『磯馴松金糸腰蓑』へ―〈剛悪の趣意〉を軸として―」、『読本研究新集』、読本研究の会、第8集、2016.07	「〈文学作品〉としての『少年の日の思い出』利用の研究―中学校における実践研究を通じて―」、『人文科教育研究』、人文科教育学会、第43号、2016.09	「中島敦『山月記』を読む―時代をみつめる作者の眼―」(二)」、『川村学園女子大学研究紀要』第28巻、川村学園女子大学、2017.03
伊藤 純	日本文化	准教授	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了	博士(人間科学)	民俗学	文化人類学	日本の祭りと儀礼	日本の伝統芸能	「三宅島の芸能―その歴史と現在―」『民俗芸能』(101)、pp.23-35、2023年	「雑誌『民俗芸能』100号の軌跡」『民俗芸能』(100)、pp. 84-97、2022年	「法印神楽園の獅子舞」『山岳修験』(68)、pp.23-43、2021年	「ベッドタウンで「伝統」と向き合う―立川市諏訪神社の獅子舞のあゆみ―」『多摩のあゆみ』(180)、pp.14-23、2020年
川田 明彦	日本文化	講師	京都情報大学院大学応用情報技術研究科ウェブビジネス技術専攻 終了	情報技術修士	情報学	表象文化論	情報処理	映像文化論	「マンガ・アニメ制作体験における生成AI活用の可能性とリスク」映像文化論の実践講義を通じて」日本教材学会.2024	「画像生成AIのMidjourneyを活用したマンガ教材作成―マンガの創作経験の無い教員による創作―」日本マンガ学会.2024	「教材としてのマンガ―認知科学的知見からの考察―」京都情報大学院大学.2024	
張 明	日本文化	講師	学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻博士後期課程修了	博士(日本語日本文学)	日本語学	日本語教育学	日本語学(音声言語を含む)	日本語教授法(初級編)(中上級編)	『現代日本語の字音接辞―連体詞型字音接頭辞の記述的研究―』(単著)花鳥社.2024年	「不定機能を持つ前接要素「某(ボウ)」」『日本語の研究』第16巻第1号.pp.51-67.2020年	「過去性を持つ和語接頭辞「元」について―後接名詞にかかるとはいえない場合を中心に―」『日本語／日本語教育研究』第10号.pp.21-36.2019年	「字音形態素「両」に関する一考察」『日本語文法』第19巻第2号.pp.117-125.2019年
宮内 理伽	日本文化	講師	東京大学大学院人文社会系研究科日本文学文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士後期課程単位取得退学	修士(文学)	平安朝文学	日本古典文学	日本文学と女性(古典)	日本文化専門演習Ⅱ	『『源氏物語』邸第呼称の方法意識―左・右大臣家と頭中将家を中心に―』『中古文学』第111号、pp47～61、2023年	『『源氏物語』女三宮の裳着―朱雀院柏梁殿に注目して―』『東京大学国文学論集』第18号、pp1～19、2023年	『『源氏物語』続篇における六条院世界の変容について―匂部卿巻賭弓の還餐を中心に―』『国語と国文学』第100巻第2号、pp19～33、2023年	『『源氏物語』再会の場面における「ねび」表現―過去の記憶をめぐる― 』『日本文学』第74巻第2号、pp22～32、2025年

令和7年度 教員の学位・業績等

教育学部 幼児教育学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
菅井 洋子	幼児教育	教授	日本女子大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻博士課程後期修了	博士(学術)	発達心理学	保育学	保育の心理学	保育内容言葉の指導法	〔著書〕菅井洋子,2012,単著,乳幼児期の絵本場面における共同活動に関する発達研究:共同注意の指さしからの探究,風間書房	〔著書〕菅井洋子, 2019, 共著, 第1章読書の発達 1赤ちゃんと絵本:指さして参加し楽しむ社会文化的活動,「読書教育の未来」, ひつじ書房	菅井洋子, 2020, 共著, 第6章乳児保育における言葉をはぐくむ保育実践,「子どもの姿からはじめる領域言葉」、みらい	〔論文〕菅井洋子, 2021, 単著, 生活や遊び場面での子ども理解を深める学生の「子ども体験」、川村学園女子大学研究紀要32(2)、21-40
江村 綾野	幼児教育	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程単位取得満期退学	修士(人文科学)	生涯発達心理学	保育・幼児教育	子育て支援	子ども家庭支援の心理学	〔著書〕江村綾野(2021) 多様なニーズを抱える家庭の理解と支援 太田光洋編著 子育て支援演習 建帛社, 118-125	【著書】江村綾野(2018) 胎児期からはじまる育ち 鈴木敏昭他編著 保育を深めるための心理学 花伝社, 16-27	【論文】江村綾野(2018) 幼児の生活とそれに伴う母親の心情:幼児理解のための家族システム論に基づく検討 川村学園女子大学研究紀要, 29(2), 103-115	【論文】江村綾野(2018) 幼稚園・保育所・こども園における保育者の幼児理解:保育者としての幼児理解を深めるために 教職センター年報, 1, 21-29
手塚 崇子	幼児教育	教授	専修大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学	博士(経済学)	保育制度・政策・行財政	社会保障(子ども)・地方財政	子ども家庭福祉	保育者論	〔著書〕手塚崇子(2014)「幼保一体化施設の運営と行財政ー就学前教育・保育の一元化をめぐるー」(単著)専修大学出版局	【著書】手塚崇子(2025)「第12章 社会的養護の課題と対応」『児童・家庭福祉(第2版)子どもと家庭の最善の利益』(共著)ミネルヴァ書房、pp.148-160.	【著書】手塚崇子(2025)「第12章 社会福祉におけるソーシャルワーク」『社会福祉(第2版)原理と政策』(共著)ミネルヴァ書房、pp.140-151	【論文】手塚崇子(2025)「こども基本法と地方自治体ーこども基本法と地方自治体の条例や政策過程参加の取り組みに着目してー」『川村学園女子大学研究紀要』第36巻、pp.107-119.
溝口 武史	幼児教育	教授	横浜国立大学大学院教育学研究科	教育学修士	幼児教育学	保育者養成	保育内容健康の指導法	子どもと運動	〔著書〕溝口武史(2019)「個と集団の発達を踏まえた保育」『新基本保育シリーズ14保育内容総論』(共著),中央法規出版,pp.117-128.	【著書】溝口武史(2014)「幼児教育者に求められているもの」『保育・教職実践演習ー保育理論と保育実践の手引きー』(共著),大学図書出版,pp.34-45.	【著書】溝口武史(2008・2009)「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査報告書Ⅰ・Ⅱ」(共著)保育士養成協議会保育士養成資料集50号・52号	【論文】溝口武史(2025)「幼稚園教諭課程における保育内容指導法(健康)における一考察ー養成校のシラバスからー」川村学園女子大学教職センター年報第9号,pp.93-113.
関本 仁	幼児教育	准教授	早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程教育基礎学専攻単位取得満期退学	修士(教育学)	教育学	近代日本社会教育史	教育原理	教職入門	【論文】関本仁「勤労学生による学びの戦後史に関する一考察」『川村学園女子大学研究紀要』第 36巻、pp.121-136.2025年3月.	【論文】関本仁「デューイの教育理論に基づくカリキュラムと方法 ー幼保小連携に関わる現代日本の幼児教育への影響ー」:川村学園女子大学研究紀要(35)pp.79-92, 2024.3.	【論文】関本仁,戦前における勤労学生の学びについての一考察 ー学習者のライフヒストリーからー: 早稲田教育評論 28(1) pp.117-134. 2014.3.	【論文】関本仁,ペスタロッチの教育思想についてのー考察 ー社会的弱者に対する学習権の権利擁護の観点からー: 福島学院大学研究紀要(53) pp.23-33. 2017.11.
山下 佳香	幼児教育	准教授	上越教育大学大学院学校教育研究科 幼児教育専攻修了	修士(教育学)	保育学	保育者養成教育	環境・保育内容環境指導法	保育実習演習	【論文】「学生の主体的な姿をふまえた保育実習授業の展開に向けて(5)ー保育実習Ⅲ終了後の実態調査2022年度と2023年度の比較ー」 川村学園女子大学研究紀要第36巻 pp.79-96.2025.3	【論文】「幼児の主体的な室内遊びを促す保育環境に関する研究ー3歳児及び4歳児クラスの実作遊びにみる変容の姿からの考察ー」川村学園女子大学研究紀要第35巻 pp.107-122.2024.3	【論文】「学生の主体的な姿をふまえた保育実習授業の展開に向けて(1)ー保育実習Ⅲの実態調査からー」 川村学園女子大学教職センター年報第7号 pp.115-136.2023.3	【論文】「子育て支援を考えた乳児保育室内環境について」川村学園女子大学教職センター年報第6号 pp.109-116.2022.3
大澤 里紗	幼児教育	講師	国立音楽大学大学院音楽研究科(器楽)博士後期課程修了	博士(音楽)	ピアノ	音楽教育	保育内容の理解と方法(音楽)	ピアノ演習	【論文】クララ・シューマンの楽譜編集と「教育版」についてークララ・シューマン版をめぐる諸問題ー『学苑 昭和女子大学紀要』第930号 p.50-66,2022年7月,単著	【論文】5歳児のアコースティックな音楽体験における受容の多様性と発展のプロセスー幼児を対象とした文化・芸術体験事業くムジカ」の調査研究を通して『昭和女子大学現代教育研究所紀要第8号』第8号p.60-80.2023年3月,共著	【論文】教員養成校における保育内容5領域の総合的な学びに向けてー製作課題の実践を通してー『昭和女子大学現代教育研究所紀要第9号』p.111-119.2024年3月,共著	【論文】保育者養成校のピアノ指導における遠隔授業の実践と課題 ー 2020 年度「音楽実技Ⅱ」アンケート調査報告』『こども教育宝仙大学紀要』第12巻, p.71-77 2020年3月,単著
真鍋 可苗	幼児教育	助手	藤女子大学 人間生活学部 保育学科	学士(保育学)								

令和7年度 教員の学位・業績等

教育学部 児童教育学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
小山 久美子	児童教育	教授	日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程後期単位取得満期退学	文学修士	言語学	英語教育	英語学特講	小学校英語指導法	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房、2024年	「英文法における誤答」『川村学園女子大学教職センター年報』第6号、2022年	「英語における分裂文再考—小説における使用と機能—」『川村学園女子大学研究紀要』第29巻第1号、2018年	『英語学用語辞典』(共)三省堂、1998年
加藤 美由紀	児童教育	教授	日本女子大学大学院人間社会研究科教育学専攻博士課程後期単位取得退学	博士(教育学)	理科教育学	環境教育	理科	理科教育法	【論文】(共著)「写真上の植物の被度を測定する教材の開発—身の回りの外来植物に着目して—」『環境教育』31(1), pp.45–54. 2024	【論文】(単著)「オーストラリアビクトリア州の科学カリキュラムの特質—『人間の努力としての科学』に注目して—」『川村学園女子大学研究紀要』第35巻, pp.123–134. 2024	【論文】(単著)「高等学校生物教科書に見られる自然保護から生物多様性保全への変遷」『生物教育』56(3),pp.94–110. 2015	【論文】(単著)「中学校学習指導要領に見る保全教育の変遷と課題」『環境教育』25(1),pp.119–131. 2015
小倉 京子	児童教育	教授	千葉大学大学院教育学研究科	修士(教育学)	特別支援教育	進路指導・キャリア教育	特別支援教育	進路指導・キャリア教育	【論文】「知的障害のある生徒に対するデュアルシステム実習による効果」『川村学園女子大学教職センター年報』第9号	【編著】「作業学習 不易流行」全日本特別支援教育研究連盟編 2017 楠東洋館出版社	【編著】子ども主体の教育シリーズ「学習指導案の書き方」2015 (有)ケーアンドエイチ	【論文】「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの校内支援体制の充実について—A市内の小・中学校を対象として—」2005 千葉大学大学院教育学研究科
山口 祐子	児童教育	教授	放送大学大学院文化科学研究科	修士	小学校教育全般	教育実践研究	学校経営論	教育実習演習	『日本近代教育と川村学園』(共)ゆまに書房、2024年	『川村学園女子大学教職センター年報』1号総合的な学習の時間の実践	『川村学園女子大学教職センター年報』2号 ❶チームN ❷小の特別支援教育づくり校内資源を活用して—	『川村学園女子大学教職センター年報』5号 探究的な学習に主体的に取り組む児童の育成—教科等横断的な視点での授業づくり—中学校の道徳教科書編集
横山 悦子	児童教育	教授	福島県立会津短期大学デザイン科	准学士	国語教育	図工・美術	国語	国語科教育法	【著書】『はしだてえつこの児童詩の世界』全13冊、銀の鈴社、1992–2001 【著書】『命のカルタ』、銀の鈴社、2006 『めるへん文庫』全19冊、共著、我孫子市教育委員会、2004–2023	【著書】鈴の音童話『魔女シリーズ』全18巻、銀の鈴社、1998–2017 【著書】エッセイ『魔女が校長先生になった』銀の鈴社、2020 【著書】学校経営『学校経営は想像の泉』銀の鈴社、2023 『わくわく童話 ひとりじゃないって』共書、文研出版、1996	【著書】すずのねえほん『魔女えほん』全15巻、銀の鈴社、2002–2008 【著書】心の絵本『ほくはココロ』全5巻、銀の鈴社、2004 【著書】もの知り絵本『ビベッタの幸せ探し12支めぐり』銀の鈴社、1995 【著書】『ポケット絵本シリーズ』全7巻、銀の鈴社、2005–2019	「主体的・対話的深い学びは楽しむことから」小学館、総合教育技術5月号、2019 「準備と引き継ぎのポイント・校長編」小学館、総合教育技術3月号、2021 「主体的な学びを育む総合の力」小学館、教育技術4/5月号、2021
奥田 順也	児童教育	准教授	国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻(イタリア歌曲)	修士(音楽)	声楽	音楽教育学	音楽科教育法	音楽	「小学校低学年における『声量』を重視した地声による歌唱に関する音声分析的アプローチ—歌唱の際のピッチに着目して—」(2016)『教育実践学研究』第19号、教育実践学会、pp.77–95.	「小学校低学年における鍵盤ハーモニカの運指を指導するための学習プロセスの構築とその有用性に関する研究—授業実践から得られたデータを用いて—」(2018)『教育実践学研究』第21号、教育実践学会、pp.51–75.	「小学校低学年の歌唱指導における『どなり声』の解消法に関する考察—実践事例に見られる傾向について—」(2015)『玉川大学芸術学部紀要』芸術研究6、pp.11–20.	「音符の名称と形状の定着を図る小学校音楽科の常時活動の教材開発—《やまびこごっこ》の替え歌《音符の絵描き歌》」(2024)『音学習研究案』第18巻、音楽学習学会、pp.1–12.
松本 祐介	児童教育	准教授	筑波大学大学院博士後期課程体育科学専攻単位取得退学	修士(教育学)	体育科教育学	スポーツ教育学	体育科教育法	健康スポーツ論	小学校低学年の体育授業における捕球技能の習得—捕球動作の選択の学習とその効果—、(2013)スポーツ教育学研究、33(2):1–13.	小学校低学年における捕球技能向上のための学習プログラムの開発—動作の選択と体幹の移動に着目して—、(2010)日本スポーツ教育学会第30回記念大会プロシーディングス、pp.132–138.	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—、(2015)川村学園女子大学研究紀要、26(2):63–80	小学校低学年における捕球動作の学習必要性—学習の有無による捕球動作の相違から—、(2015)川村学園女子大学研究紀要、26(2):63–80
山口 恭平	児童教育	准教授	東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学	修士(教育学)	教育学	教育思想	教育原理	道徳の理論と指導法	「J.パトラーにおける『政治教育』」東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第42号、2016年、pp.205–214.	「カリキュラムとunlearn」川村学園女子大学教職センター『川村学園女子大学教職センター年報』第5号、2021年、pp.63–75.	『『道徳教育論』の指導法にかんする覚え書き—『今日の道徳教育における問題の検討』を中心に—」桜美林大学『教職研究』第2号、2017年、pp.61–69.	「幼児教育におけるカリキュラムと『主体性』」川村学園女子大学教職センター『川村学園女子大学教職センター年報』第5号、2021、pp.77–84.

令和7年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 生活文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
永嶋 久美子	生活文化	教授	昭和女子大学大学院生活機構研究科博士後期課程生活機構学専攻修了	博士(学術)	調理科学	食教育	調理学	給食管理実習	【著書】『一食献立による調理実習25 第2版』共著, 医歯薬出版, 2016年	【論文】「給食を通じた食文化の継承に関する研究 献立および食の作法の伝承からの検討」(共著), 『食生活科学・文化・環境に関する研究助成研究紀要』, 第33巻(2018年度), pp.109-119, 公益財団法人アサヒグループ学術振興財団, 2020年	【論文】「凍みもちの内部組織構造と食味特性を形成する凍結・乾燥条件の検討」(共著), 『日本家政学会誌』, 第66巻, 第4号, pp.1-11, 日本家政学会, 2015年	【著書】『近代日本教育史と川村学園』共著, ゆまに書房, 2024年
香山 綾子	生活文化	教授	東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻	博士(医学)	生命科学	分子生物学	生化学	解剖生理学	Effect of a Virtual Reality Contact-Based Educational Intervention on the Public Stigma of Depression: Randomized Controlled Pilot Study. JMIR Formative Research (2022)	Loss of GPRC5B impairs synapse formation of Purkinje cells with cerebellar nuclear neurons and disrupts cerebellar synaptic plasticity and motor learning. Neurosci Res. 136 p33-47 (2018)	Mice lacking a functional NMDA receptor exhibit social subordination in a group-housed environment. FEBS J. 285(1) p188-196 (2018)	Loss of BOSS causes Shortened lifespan with Mitochondrial Dysfunction in Drosophila. PLoS One. 12(1): e0169073 (2017)
齋藤 美重子	生活文化	教授	日本女子大学大学院家政学研究科生活経済専攻修了	修士(家政学)	家庭科教育学	生活経営学	社会生活入門	家庭科教育法	【著書】『アドボカシーが活きるユニバーサル・ケア』編著, 大学教育出版, 2024	『自然と社会と心の人間学』編著, 一藝社, 2020	【論文】Mieko SAITO, Midori OTAKE,他5名, Studies of Home Economics around the World and MDGs, (査読有), The Journal of Asian Regional Association for Home Economics(ARAHE), Volume 25・Number 4・2018	【論文】単著「消費者市民社会に向けたアサーション・ディベート授業」(査読有)『消費者教育』第39冊, 日本消費者教育学会, 2019
佐久間 美穂	生活文化	教授	日本女子大学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻	修士(社会福祉学)	社会福祉	福祉コミュニティ	社会福祉	保育実習Ⅱ(施設)	『新 世界の社会福祉 第12巻 国際社会福祉』, 分担, 旬報社, 2020	『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』第2版, 分担, みらい, 2024	「創造的社会の構築とコミュニティ郊外型コミュニティの現状と課題に関する考察を通じて」(単著)『東北都市学会研究年報』Vol.15-16, 東北都市学会, 2016	「過疎地・中山間地域の特徴に即した地域包括ケアの構築の課題ー中山間地域の地域包括支援センター専門職のインタビューからー」(共著)『川村学園女子大学研究紀要』第36巻, pp.205-218, 2025
佐藤 真弓	生活文化	教授	お茶の水女子大学大学院家政学研究科家庭経営学専攻	修士(家政学)	家政学原論	家庭経営学	家族関係学	家庭経営学	『新版 生活と家族 ー幸せに生きることへの探究』(単著)一藝社、2025	『自然と社会と心の人間学』(共著)一藝社、2020	Examining the relationship between carers' attitudes towards life and their care behaviour based on the results of a questionnaire survey in Japan (共著) 教育文化研究 Vol.15,1-17,2024	THE USAGE OF CELL PHONES AND THE FEELING TO THEM IN MODERN JAPANESE COLLEGE STUDENTS (共著) 2010, JOURNAL OF HUMAN ERGOLOGY Vol.39, No.1, pp.23-33
叶内 茜	生活文化	准教授	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科学校教育学専攻修了	博士(教育学)	家庭科教育学	保育学	保育学	家庭の健康学	『家庭科教育研究が拓く地平』日本家庭科教育学会(共著)学文社、2024	『ウェルビーイング実現の主体を育む家庭科教育の理論』大学家庭科教育研究会(共著)ドメス出版、2024	『教育学部の誕生 近代日本教育史と川村学園』, 学校法人川村学園(共著)ゆまに書房、2024年	【論文】「若手教員が抱える世代間交流の課題ー乳幼児と中学生のふれ合い体験の実践に着目してー」(単著),日本世代間交流学会誌.10.39-47.2021.
庄司 武史	生活文化	准教授	早稲田大学大学院社会科学研究科地球社会論専攻博士後期課程修了	博士(学術)	歴史社会学	社会思想史	社会学概論	データサイエンス入門	(単著)『清水幾太郎——経験、この人間的なるもの』ミネルヴァ書房, 2020.	(単著)『清水幾太郎 異彩の学匠の思想と実践』ミネルヴァ書房, 2015.	(論文)「財団法人二十世紀研究所の事業と思想——終戦直後における知識人活動の一事例」『社会思想史研究』第47号, 2023.	(論文)「清水幾太郎著『社会学概論』の成立過程に関する考察——戦後啓発活動とアカデミズムの結節点として」『人文学報』第521-1号, 2024.
築館 香澄	生活文化	准教授	大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻修了	博士(生活科学)	食生活学	食品学	食品学	食品加工学	「国産紅茶と和菓子をペアリングする」(単著), 日本家政学会誌, 76(1), 41-46, 2025	『おいしさを創るフードテックの新展開』(共著), シーエムシー出版, 2024	『よくわかる食品学総論』(共著) 朝倉書店, 2024	『文部科学省検定済教科書 高等学校家庭科用 フードデザイン』(共著) 実教出版, 2023
朴 善美	生活文化	講師	日本女子大学大学院家政学研究科食物・栄養学専攻修了	修士(家政学)	臨床栄養学	栄養食事療法	臨床栄養学	栄養指導論	Japan diet intake changes serum phospholipid fatty acid compositions in middle-aged men: a pilot study, J Atheroscler Thromb. 26(1):3-13, 2018(共著)	食物アレルギー児の保育所受け入れ状況等に関する実態調査, アレルギー, 70(4):293-301, 2021(共著)	症例を通して学ぶ 年代別食物アレルギーのすべて 改訂2版, 南山堂, 2018(共著)	そのまま使える! シーン別 食物アレルギーの栄養食事指導, 南山堂, 2020(共著)
松本 梓	生活文化	講師	女子栄養大学大学院栄養学研究科 栄養学専攻 博士後期課程修了	博士(栄養学)	基礎栄養学	脂質栄養学	基礎栄養学	応用調理学実習	Association of maternal blood and umbilical cord blood plasma fatty acid levels with the body size at birth of Japanese infants. Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 202:102638 (2024)	Associations of Umbilical Cord Fatty Acid Profiles and Desaturase Enzyme Indices with Birth Weight for Gestational Age in Japanese Infants.Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids., 165, 102233 (2021)	「肥満における食事性長鎖飽和脂肪酸と視床下部機能障害との関連の可能性」栄養学レビュー, 女子栄養大学出版部, pp.60-82 (2020)	平成31年度メチル水銀曝露による健康影響に関するレビュー, pp.26-29

戸田 聡子	生活文化	助手	川村短期大学卒	準学士								
平中 菜摘	生活文化	助手	東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科 管理栄養士専攻	学士(応用生物化学)								
太田 ゆき江	生活文化	助手	東京家政学院大学 家政学部 家政学科 管理栄養士専攻	学士(家政学)								

令和7年度 教員の学位・業績等

生活創造学部 観光文化学科

氏名		職名	最終学歴	保有学位・分野	専門分野①	専門分野②	主たる担当科目①	主たる担当科目②	主たる研究業績等①	主たる研究業績等②	主たる研究業績等③	主たる研究業績等④
西川 誠	観光文化	教授	東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退	文学修士	日本近代史	日本政治史	日本史概説(2)	日本史(1)	『日本政治史の新天地』(共著)(吉田書店, 2013年)	『史料を読み解く4 幕末維新の政治と社会』(共著)(山川出版社, 2009年)	『日本立憲政治の形成と変質』(共編著)(吉川弘文館, 2005年)	『山縣有朋関係文書』全3巻(共編)(山川出版社, 2004～2007年)
菱田 信彦	国際英語	教授	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学	修士(文学)	イギリス小説	英米児童文学, 文学批評理論	国際コミュニケーション(イギリス研修)	英語文学演習	論文「アクション・リサーチを活用した高等学校における英語プレゼンテーションの学習」(単著)(査読有), 『川村学園女子大学研究紀要』28(1), 15-31, 2017.	論文「従順なエルフと抵抗するゴブリン:『ハリー・ポッター』シリーズの魔法種族における価値の逆転」(単著)(査読有), 『東京女子大学比較文化研究紀要』78, 59-76, 2017.	著書『快読「ハリー・ポッター」:ハーマイオニーとロン結婚をめぐるローリングの“後悔”とは?』(単著), 小鳥遊書房, 2022.	論文「『グリーン・ノウ物語』シリーズにおける語り, 音, 時間」(単著)(査読無), 田中美保子・安藤 聡編著, 『ルーシー・ボストン: 館の魔法に魅せられた芸術家』, 国書刊行会, 131-167, 2022.
櫻井 正	観光文化	准教授	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科ビジネスデザイン専攻 博士課程前期修了	修士(経営管理学)	観光学	キャリアデザイン学	観光マーケティング論	キャリア・プランニングⅣ(1)(2)	「リゾート型民泊ビジネス1」-ビジネス特性の仮説(用地選定から開業まで)- (単著)愛知学院大学紀要第52号 2023年3月	「日帰りバスツアービジネスⅠ」-特徴的な観光資源と職業能力評価基準の可視化- (単著)帝京短期大学紀要第21号 2020年3月	「フラワーツーリズムによるまちづくりからの観光振興」(単著)帝京短期大学紀要第20号 2018年3月	「大学におけるゼミのイノベーション」(単著)一般社団法人サービス連合総研『SQUARE』2018秋号 2018年9月
高山 啓子	生活文化	教授	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻	修士(人文科学)	社会学	コミュニケーション論	社会学	観光社会学	『文化の社会学ー実践と再生産のメカニズムー』(宮島喬編)(共著)有信堂1995年5月	『語る身体・見る身体』(西阪仰・山崎敬一編)(共著)ハーベスト社1997年12月	マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』(水川喜文、中村和生、浦野茂、前田泰樹、高山啓子、岡田光弘、芦川晋 訳)(共訳)頤草書房2012年10月	「協同作業場面の身体配置ー通信指令室における社会空間の構成ー」(単著)『年報社会学論集』10号157-168頁、1997年6月
戸澤 純子	観光文化	教授	日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程	博士(心理学)	認知心理学	実験美学	心理学	情報処理	ポテンシャル知覚心理学(共著)(サイエンス社) 2017年	認定心理士資格委員会(編) 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 (共著)(金子書房) 2015年	(単著) Height perception influenced by texture gradient,2012, Perception,41,774-790	(単著) Role of a texture gradient for the perception of relative size, 2010,Perception, 39, 641-660
山下 琢巳	観光文化	教授	筑波大学大学院博士課程人文・社会科学研究科	博士(文学)	人文地理学	歴史地理学	観光地理学	日本地誌	『水害常襲地域の地域構造ー天竜川下流域の近世・近代ー』(単著)古今書院2015年	『生活文化の歴史地理学』(共著)古今書院 2019年	「『牛浜出水の図』に描かれた江戸時代の浸水被害の復元と内水氾濫の特徴」 (単著) 『歴史地理学』66-1、2024年	「『奥多摩』名称の誕生と定着ー旅行案内の記載を中心としてー」(単著)『川村学園女子大学研究紀要』36、2025年
山田 祐子	観光文化	准教授	事業構想大学院大学 事業構想研究科事業構想専攻修士課程修了	事業構想修士(専門職)	宿泊産業経営論	ホスピタリティ産業論	観光事業論	ホテル・マネジメント論	旅館人材のためのリカレント教育プログラムの考察ー湯田中洪温泉郷人材開発協議会の実務人材確保・育成事業を事例にー(単著)日本観光研究学会, 2021年	観光従事者のためのリカレント教育についての展望と動向(単著)高崎経済大学地域政策学会「地域政策研究」第24巻第1号	インターンシップにおけるクラウドサービスによるコミュニケーションへの検討ーインターンシップのためのコミュニケーションアプリによる測定と観察ー(単著)日本観光研究学会, 2017年	日本旅館におけるベトナム人材の育成と登用の検討ー外国人人材支援システムの構築を目指してー(単著)日本観光研究学会, 2016年
植松 大介	観光文化	准教授	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科 体育・スポーツ社会学 領域 修士課程	修士(スポーツマネジメント)	ホスピタリティマネジメント	ニューツーリズム	ホスピタリティ入門	観光英語	「宿泊産業論」ーホテルと旅館の事業展開ー(共著)創成社 2020年	「実践型講義及び実習を通しての日本文化理解の試み」(共著)武蔵丘短期大学紀要第29巻 2022年	「学生によるサービス業界における企画運営の試み」(共著)武蔵丘短期大学紀要第26巻 2019年	英語アレルギー除去を目的とした英語講義の展開」(単著)武蔵丘短期大学紀要第24号 2016年
江口 智子	観光文化	講師	早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了	修士(経済学)	金融論	フードツーリズム	観光経営学	キャリア・プランニングⅠ、Ⅲ(1)、Ⅳ(1)	「6次産業化による地域経済活性化の具体的方策に関する研究ーワインツーリズムやまなしの特性 観光客の定量的分析ー」(単著)昭和女子大学現代ビジネス研究所報告書, p3-12,2015年.	「小規模ワイナリーの経営戦略に関する研究: 山梨県のワイナリーにおけるテイスティングルーム・マネジメントの現状調査」(単著)日本フードサービス学会年報第23号,p114-117,2018年.	「テイスティングルームの従業員プロフィールと職場内訓練に関する調査ー山梨県のワイナリーを事例としてー」(単著)昭和女子大学現代ビジネス研究紀要,第4号,p5-16, 2019年.	「教育過剰」への対応としての産学連携教育の可能性(単著)川村学園女子大学研究紀要第36巻, p263-280, 2024年